

## 第 29 回議会報告会 報告書

地域名	熊次地域		
年月日	令和 8 年 4 月 23 日 (木)	会場名	熊次コミュニティスポーツセンター
開始時間	19 時 30 分	終了時間	21 時 5 分
参加数	男性 10 人	女性 2 人	合計 12 人
班 長	前田 稔	司会者	前田 稔
報告者	井戸 弘美	書記	藤原芳巳
班員名	前田 稔、藤原芳巳、津崎和男、井戸弘美		
	市 民	対 応	
報告に対する質疑	<p>① 一般質問での議員の考え方に共感している。市内人口や子どもの数が減る中で、子どもや市の未来を考えることが重要だ。未来へ向けた人への投資、人を資本と捉え、行政がどう動いて人口を増やすのか聞きたい。</p> <p>② 学校・園所の適正配置の答申などでは、東京一極集中の縮図を見ているように感じる。特色のある学校を残し、そういう科目を増やし、その教育を充実させ、市外からも生徒が来るような教育方針を実行してほしい。家を建てる時などは中学校の近くがいいとなる。教育の場を逆に大屋や関宮に広げて、自然を取り込み魅力ある学校運営をしたほうが、養父市の持続につながる道ではないか。</p> <p>③ 公立八鹿病院組合への支援だが、いつまでも財政支援を続けるというのは現実的でない。公立病院でも黒字のところはあるはずなので、その経営を研究できないか。</p>	<p>① 市内に生まれてくる子どもの数が本当に少ない状況がある。今いる子ども達をまず輝かすことから未来創造を考えたい。一度外へ出ても、帰ってきやすい養父市にしたい思いで一般質問を行った。</p> <p>② 文部科学省も少人数学級でも社会性を育むことはできるとの見解を出しているし、教育のあり方は今後ますます変化する。そこに期待を持ちながら、地域とともにある学校として皆さんで特色のある学校を作り、地域に残す努力をしていただきたい。</p> <p>③ 令和 7 年度から令和 9 年度までの 3 年間を集中支援期間として財政的な支援を行う。内部では、あらゆる経営改善の努力が行われているところだ。</p>	
意見交換会での質疑	<p>① 観光は、外貨を獲得して自主財源を作り、市内に循環できる事業であるが、養父市には具体的な方向性が見えない。政策に観光をもっと反映できないものか。</p>	<p>① 今年度の重点施策では、商工観光課所管の事業は、「スタートアップスタジオ事業」、「YABUフードEXPO」などが上がっている。</p>	

	市民	対応
意見交換会での質疑	<p>② 観光設備等について、新しく設置することには補助金もあるが、修繕やランニングコストには出してくれない。</p> <p>③ 熊の被害対策について、養父市の動きはどうか。</p>	<p>② 市の支援のあり方として、新たな事業への支援は制度でできるが、経常経費としてのランニングコストなどは自走する中で負担していただくという考え方である。</p> <p>③ 環境推進課で緊急銃猟の机上訓練を行うなど、体制整備を進めている。</p>
その他(提言など)	<p>① 氷ノ山は養父市の宝だと前市長は常々言われていたが、兵庫県側の登山道や看板などの整備はおろそかになっている。一方で鳥取県側は継続的に整備されており、取組方に大きな差を感じている。</p> <p>② 災害時の拠点整備の要望書の件では、一般質問に取り上げていただいたがよい答弁は得られなかった。現状を実際に見た上で判断してもらうよう要望書を出すのでよろしく願いたい。</p> <p>③ 養父市の持続を言うなら、八鹿は行政、養父は産業経済、大屋は観光、関宮は教育といったゾーニング構想を提案する。</p>	<p>① 兵庫県が整備してから、かなり遅れて鳥取県の整備が始まっている。市は今後も大きな再整備が必要となれば県に要請することであった。辺地計画等に基づいて整備することも可能なので、やぶ市観光協会氷ノ山鉢伏支部が商工観光課などと協議していただきたい。</p> <p>② 避難所の改修については、公平性の観点などからの答弁であった。その後、コミュニティの活性化を目的とした改修についても尋ねてみたが課題は多い。市の担当に現状を実際に見てもらい、状況の理解を得ながら解決策を探っていただきたい。</p> <p>③ ご意見としてお聞きする。</p>
備考	<p>議会報告よりも、地域課題についての意見交換を強く求められていると感じた。</p>	

議会報告会を実施したので、上記のとおり報告いたします。

令和8年5月15日

報告者 4班 班長 前田 稔